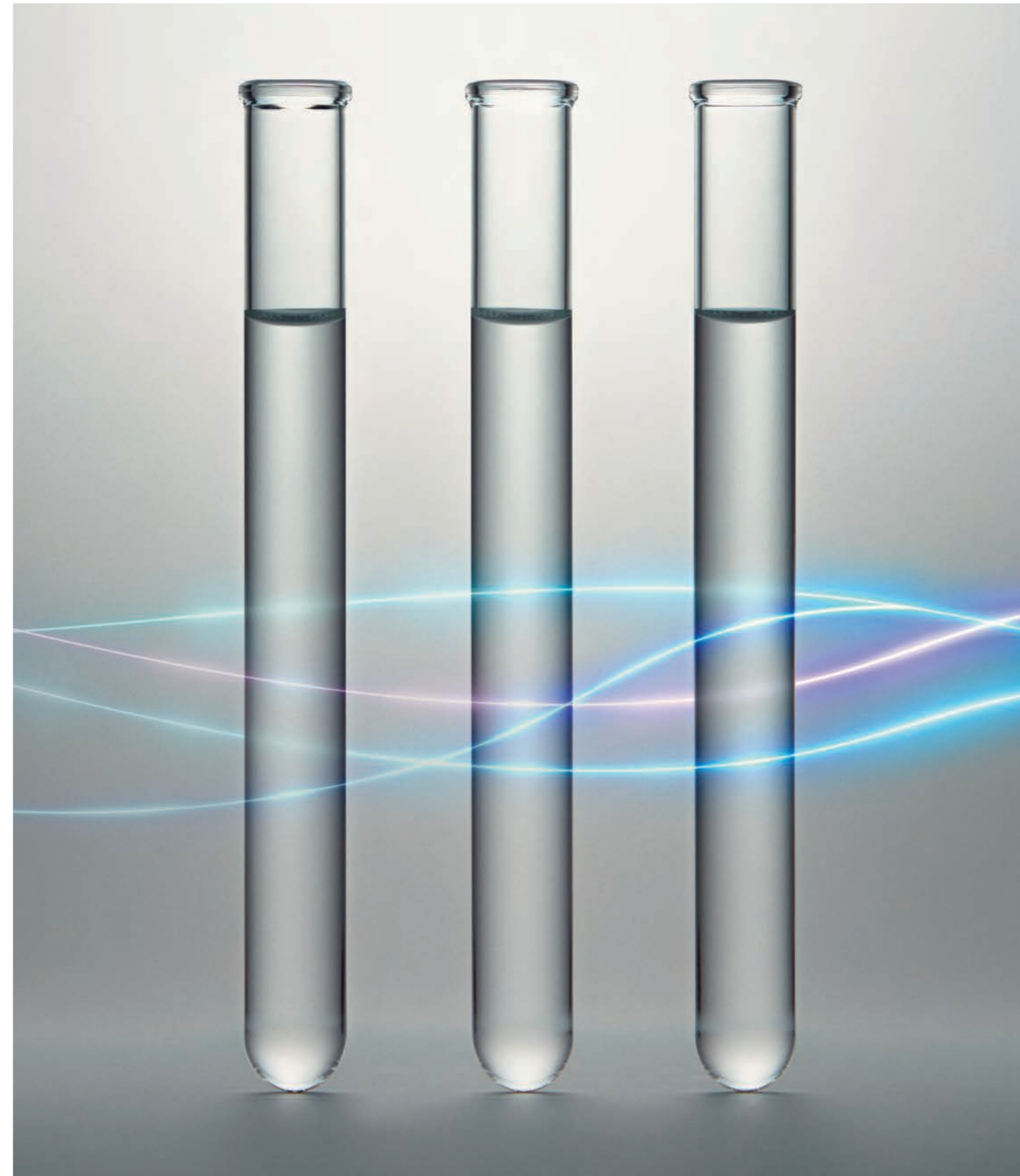


 三井化学株式会社

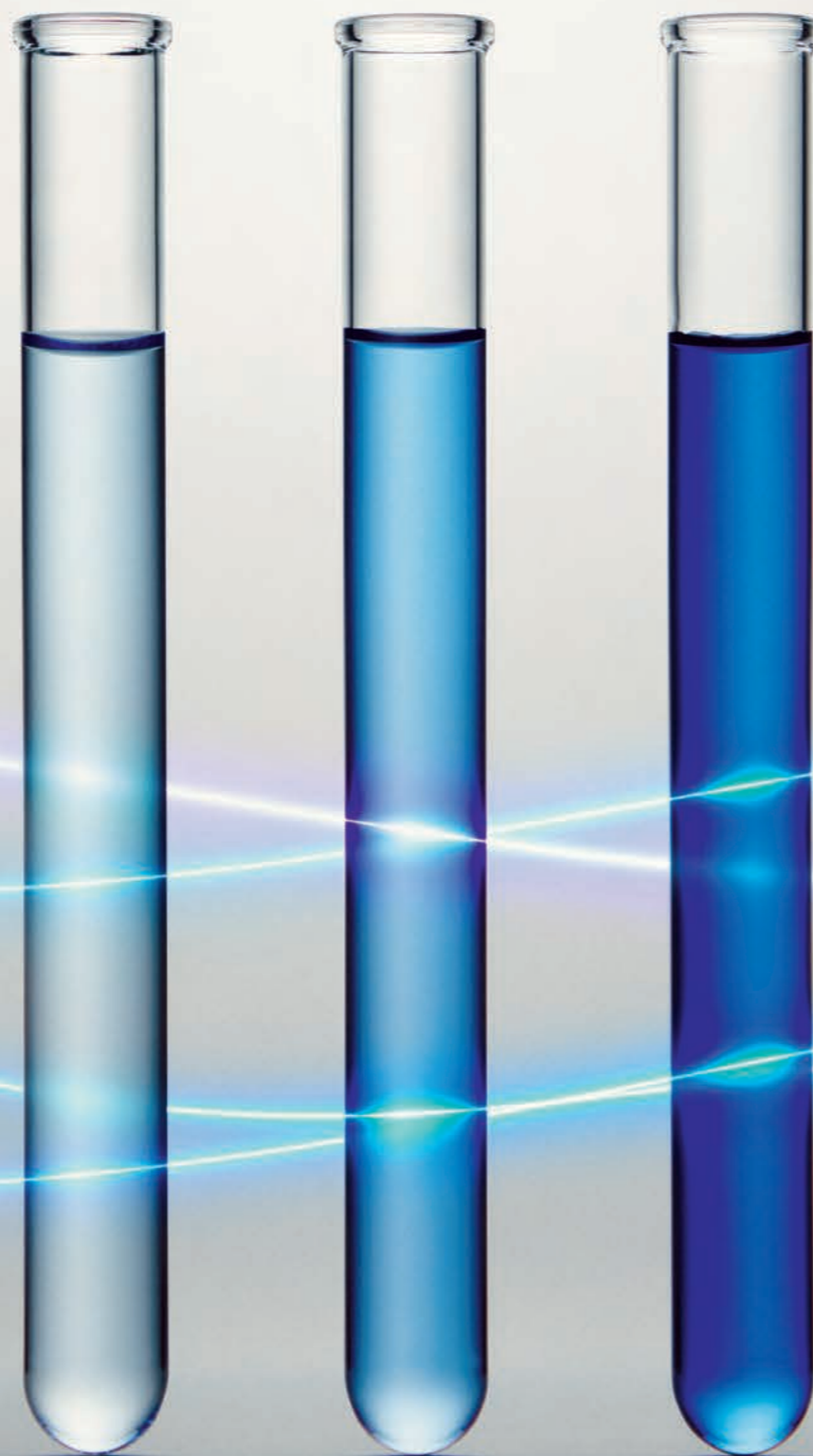
会社概要

社名	三井化学株式会社
創立年月日	1997年10月1日
社長	橋本 修
本社	〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー TEL.03-6880-7500(コーポレートコミュニケーション部)
資本金	125,738百万円
従業員	19,861人(連結2024年3月31日現在)
連結対象会社数	163社(国内55社、海外108社 2024年3月31日現在)
国内製造拠点	工場7
国内販売拠点	本社、支店3
発行済株式総数	200,843,815株(2024年3月31日現在)
主な事業内容	ライフ&ヘルスケア・ソリューション、モビリティ ソリューション、 ICT ソリューション、ベーシック&グリーン・マテリアルズ
URL	https://www.mitsuichemicals.com/

*TMならびに®表示のあるすべての製品は、三井化学株式会社または関係会社の商標あるいは登録商標です。



0→1 MAKE IT HAPPEN



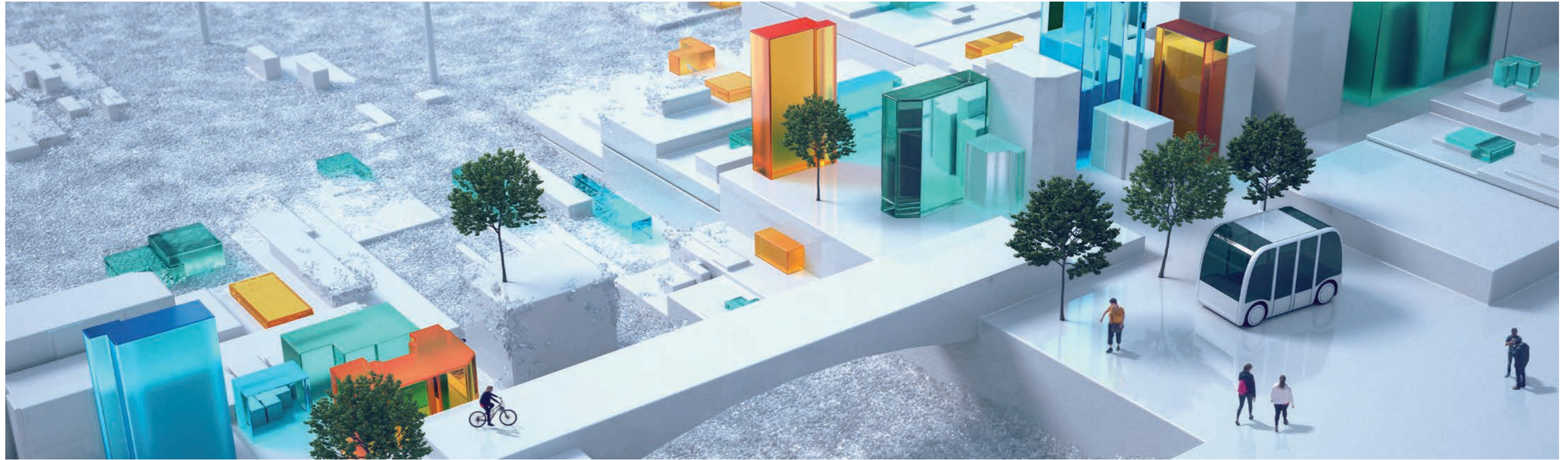
世の中を驚かせたり、
快適にしたりするアイデアは、
きっと思いきった発想の転換から
生まれてくるのだと思います。

そしてアイデアは、人の数だけ
生まれ、そのすべてが未来を
変える力につながっています。

三井化学は、100年を超え、
時代とともに変化し続けてきました。
これからも未来を見つめ、
地球環境との調和を図りながら、
変革を生み出していきます。

0→1 MAKE IT HAPPEN
ゼロからイチを生み出す化学の力で
イチからムゲンを実現し、
未来へのソリューションを提供します。





VISION

経営ビジョン

化学には社会課題に対して果たすべき役割があります。

私たち三井化学は、加速する環境変化の中で生まれるさまざまな社会課題に対し、多様な価値を創造できる化学の力で解決策を持続的に提供していきます。

企業グループ理念

地球環境との調和の中で、材料・物質の革新と創出を通して高品質の製品とサービスを顧客に提供し、もって広く社会に貢献する。

目指すべき企業グループ像

化学の力で社会課題を解決し、多様な価値の創造を通して持続的に成長し続ける企業グループ。


2030年のありたい姿

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World

変化をリードし、サステナブルな未来に貢献する
グローバル・ソリューション・パートナー

5つの基本戦略

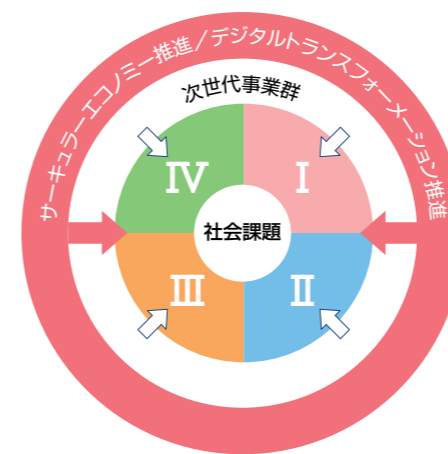
- STRATEGY **01**  **事業ポートフォリオ変革の追求**
- STRATEGY **02**  **ソリューション型ビジネスモデルの構築**
- STRATEGY **03**  **サーキュラーエコノミーへの対応強化**
- STRATEGY **04**  **DXを通じた企業変革**
- STRATEGY **05**  **経営基盤・事業基盤の変革加速**

BUSINESS PORTFOLIO

事業ポートフォリオ

事業活動を通じて社会課題を確実に解決していくために。

目指す未来社会の実現のために三井化学は、従来の素材提供型ビジネスから、社会課題視点のビジネスへの転換を進めていきます。お客様のその先の消費者のニーズや社会全体が解決すべき課題に視点を広げ、新たな価値創造を目指します。その着実な実行のために、4つの事業ポートフォリオを設定しています。



- PORTFOLIO I** **ライフ&ヘルスケア・ソリューション**
・QoL向上・食料問題解決の需要が拡大する中、強みが活きる特定市場でソリューション拡充し、第一の収益の柱へ
- PORTFOLIO II** **モビリティソリューション**
・CASEや産業構造変化に対応した内外装・電装・機構に係る素材・部材・サービスを拡充し収益拡大
- PORTFOLIO III** **ICTソリューション**
・特長ある製品を結集し、サービスを含め提供することで、ICT市場への浸透を図り、第三の収益の柱へ
- PORTFOLIO IV** **ベーシック&グリーン・マテリアルズ**
・成長領域の位置づけでサプライチェーン全体でサーキュラーエコノミー対応
・収益安定化と競争力強化の構造改革を継続

日々の暮らしを日差しが心地よく照らすように。

Acrylamide	RAV7™	TAFNEL™
CYRA™	STARKLE™	TENEBENAL™
Do Green™	SunSensors™	TREBON™
MR™	SWP™	UV+420cut™
NeoContrast™	SYNTEX™	

LIFE & HEALTHCARE SOLUTIONS

ライフ&ヘルスケア・ソリューション

**いのちと健康と、よりよい生活のために、
新たな取り組みに挑んでいます。**

世界の総人口の増加、気候変動、ウイルス感染症への対策など、私たちは地球規模の深刻な問題に直面しています。そうした中で、健康で安心な長寿社会を実現するにはどうしたらよいか——三井化学は、一つひとつの課題解決のために、生活の質(QOL)の向上と、安心・安全な食に貢献するさまざまなソリューションを提供し、快適な暮らしを支える新たな製品やサービスを生み出しています。

有害な光から目の健康を守る。

紫外線から目を守ることの重要性は広く知られていますが、最近の研究では400-420nmの短波の可視光線も網膜組織にダメージを与え、加齢黄斑変性症などの要因になり得ることが指摘されています。しかし、一般の視力矯正メガネのレンズでは、400nmまでしかカットされていませんでした。三井化学は、新しいメガネレンズ用材料として「UV+420cut™」を開発。紫外線から可視光線の420nmまでをブロックし目の健康を守ります。

赤ちゃんのお尻をもっと快適に。

紙おむつには、細い合成繊維を絡み合わせて布状にした不織布が使われています。不織布は、水分や空気の透過性がよく柔らかな肌触りで、赤ちゃんのお尻にぴったり。しかし、引っ張っても伸びたり縮んだりしないため、脱着がしづらく動きにくいという問題がありました。三井化学は、特殊な技術を駆使し世界で初めて伸縮特性のある不織布の開発に成功。おしり全体に優しくフィットし、漏れや締め付けといった不快感を格段に改善しました。この伸縮性不織布は、すでに紙おむつメーカーに採用され、赤ちゃんの成長を優しく見守っています。

患者の方々に喜ばれる歯科材料を。

オーラルケアも三井化学が今、注力しているヘルスケアの領域のひとつです。歯科材料の分野では、修復のための歯冠やブリッジを3Dスキャナーなどのデジタル機器によって設計・生産する時代を迎えています。三井化学は、そうした歯科材料のデジタル化にいち早く対応するとともに、従来の修復だけでなく予防・審美・診断といった新分野での展開を強化しています。



目の健康や快適さに応えるメガネレンズの材料を幅広く提供。



高性能不織布は、紙おむつのバックシートやギャザーの部位に。



歯科材料のデジタル化に対応し、事業をさらに展開。

MOBILITY SOLUTIONS

モビリティソリューション

**その軽快な走りは、クルマの部品の
約7割が樹脂でできているからです。**

クルマに用いられている樹脂の重量は、総重量の約10%の100キログラム程度です。しかしその使用されている数は、約3万点の部品の約7割を占めています。軽量化や環境負荷の低減など、今のクルマの課題に応えるためには、軽くてさまざまな機能を持つことのできる樹脂は、ますます欠かせない存在になってきているのです。

ニーズに合わせてカスタマイズ。

クルマに使用される樹脂で、三井化学が高いシェアを有しているのがPPコンパウンドです。PPコンパウンドとは、改質剤などを混合し特定の機能を高めたポリプロピレン系の樹脂で、お客様のニーズに合わせて配合などを変え、強度を増したり、耐衝撃性を高めたりカスタマイズすることができます。主にクルマのバンパーやインパネ、ピラー（窓の柱）などに使用されています。三井化学では、自動車メーカーのグローバル戦略に対応できるように、世界の拠点でPPコンパウンドの生産体制の強化・拡大を進めています。

軽くて柔軟、リサイクルにも対応。

三井化学の長年にわたる樹脂と合成ゴムの研究開発から生まれたのがミラストマー®です。ほかの軟質樹脂に比べて密度が低く軽いのが特長。クルマの窓枠、内装、エアバッグカバー、耐油ブーツなど数多くの部品に使用され、さらなる燃費向上が期待されます。柔軟で、さまざまな成形法に対応。またリサイクルが可能のため、省資源化による経済的なメリットもあります。

次世代型個人用高速輸送システム開発会社へ出資

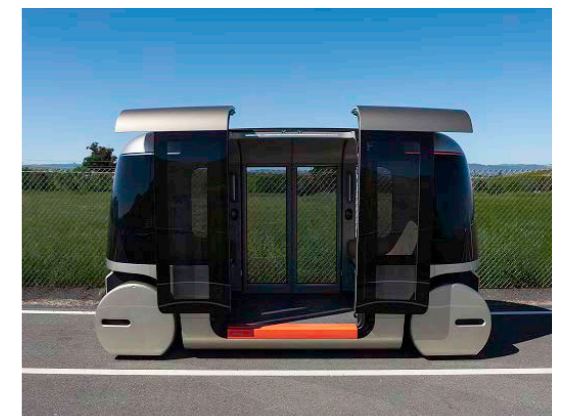
イノベーションおよび新たな顧客価値の創造を通して、社会課題の解決に貢献するため、オンデマンド型個人用高速輸送（PRT）システムを開発する米国のスタートアップ企業であるGlydways社へ出資しました。渋滞緩和、CO₂削減に大きく寄与する新たな交通システムに対して、当社の特徴ある材料の提供に加え、開発から少量生産、市場投入後のメンテナンス、リサイクルまで幅広い支援を行っていきます。



軽量で耐衝撃性に優れているPPコンパウンドは、バンパーなどに。



軽量で質感に優れるミラストマー®は、クルマの内装など幅広い用途で。



ARRK Engineeringがドア開閉システム、内装等のキャビン空間全体の開発を支援。

クルマを未来へ導く
課題解決に挑む。

ADMERTM

MOSDIO™

ARLENTM

POLYMETACTM

LUCANTM

PP compounds

MILASTOMERTM

TAFMERTM

MITSUI EPT™

ICT SOLUTIONS

ICT ソリューション

思い描いた未来を生み出す技術を支えるソリューションがあります。

私たちを未来に導く大きな原動力になっているのが、著しい進歩を遂げている半導体技術やセンシング技術です。次世代通信やAI、これからのより安全で快適なインフラなどを実現するカギを握っています。実は、こうした技術を支える製品の工程部材や材料として、三井化学の製品が数多く採用されています。『ユニーク』なICTソリューション事業で、日々進化していく市場ニーズに応えていきます。

半導体の製造をサポート。

三井化学の機能性フィルム・シートの技術は、電子材料から太陽電池、建築、物流まで、幅広い産業分野を支えています。その中でも世界トップシェアを有している製品のひとつが、イクロステープ®です。半導体の製造工程において、ウェハー表面(回路形成面)の保護テープとして使用されています。このほかにも積層セラミックコンデンサの工程用フィルム(SP-PET™)などもあり、市場の成長が著しいICT分野の需要に応えています。

透明樹脂が未来を見つめる。

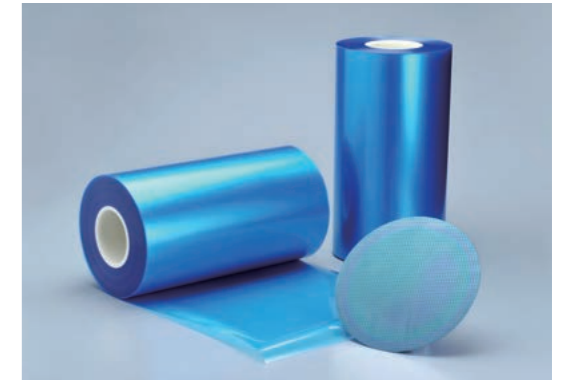
最も身近な通信機器であるスマートフォンのカメラレンズに使用されているのが、三井化学独自の環状オレフィンコポリマー、アベル®です。屈折率が高く、複屈折が低いいため、ガラスなどに替わる光学レンズとして用いられ、製品の小型・軽量設計を可能にしました。さらに、湿度や熱、経年による変化の少ない安定した光学素材として、車載用途やヘッドマウントディスプレイなど、時代の先端を走る分野で新たな可能性を拓いています。

役立つ製品を、優れた材料で。

さらに三井化学では、フィルムなどに用いる機能材や接着材料、コーティング材そのものの生産も行っています。例えば、水分散が困難といわれていた各種ポリオレフィン、独自の技術で微粒状にして水中に分散させたケミパール®は、食品や医療包装のヒートシール剤などに。また、接着剤の硬化剤などに用いられるスタビオ®は、非化石資源を活用したバイオマス由来の材料で、環境負荷の低減に貢献。社会や暮らしを支えているさまざまな製品を、そのベースとなる材料からサポートしています。

超高速・大容量の情報通信を
素材のチカラで叶える。

APEL™	SEPARATOR SP-PET™
BONRON™	STABI0™
CHEMIPEARL™	STRUCT BOND™
HI-ZEX MILLION™	TAKELACT™
ICROS™ TAPE	TAKENATE™
LUBMER™	TPX™
MITSUI PELLICLE™	UNISTOLE™



テープ剥離後も汚れが付着しにくいイクロステープ®。



アベル®は車載カメラレンズやAR/VRデバイス用光学部材などにも。



耐水性や耐薬品性などの特性を持つケミパール®は、医療包装などに。

BASIC & GREEN MATERIALS

ベーシック&グリーン・マテリアルズ

**社会の基盤を支えながら、
社会の課題に応じていきます。**

石油などを原料に化学反応を利用して生産される化学製品には、プラスチックや合成繊維、合成ゴムなどさまざまなものがあります。それぞれ優れた機能を備え、社会や暮らしの中で重要な役割を果たしています。三井化学では、高い付加価値のある石油化学製品を追求するとともに、生産システムのさらなる最適化を推進しています。また、温暖化問題の解決のために、原料のバイオマス化を進め、温室効果ガスの排出量削減にも大きく貢献していきます。

さまざまな分野で活かされる素材を。

フェノール、アセトン、ビスフェノールA、高純度テレフタル酸、ペット樹脂、アンモニア、尿素、酸化エチレン、工業用ガス、ウレタン——これらは、三井化学が製造している素材の一部です。こうした素材が、自動車や航空機、家電などのエンジニアリングプラスチック、クッション材料、衣料用繊維、飲食品容器、水やガスの浄化などの環境保全、半導体や液晶製造工程の原材料など、幅広い分野で用いられています。あらゆる産業の基盤となる素材や技術をお届けし、よりよい社会や暮らしの実現を目指します。

高品質の管材が社会のインフラに。

原料となる素材だけではなくありません。例えば、ガスの導管網や給水給湯の配管システムに欠かせないポリエチレン管です。原料のポリエチレン樹脂から品質管理を徹底。割れにくく、加工・接合性、耐久・耐候性、さらにコストパフォーマンスにも優れるなど、多くのメリットを持つポリエチレン管が、社会のインフラを支えています。

バイオマスナフサから製品をつくる。

三井化学は、循環経済の実現に向けて、プラスチック・化学品のリサイクルとともにバイオマス化にも取り組んでいます。大阪工場では2021年に、日本初荷揚げとなる、植物油廃棄物や残渣油を原料に製造されるバイオマスナフサが到着。日本で初めてのバイオマスナフサからのバイオマス誘導品の生産を開始しました。欧州で広く採用されているISCC PLUS認証に基づいたマスバランス方式で各種プラスチック・化学品に割り当てバイオマス認証を付与した製品として出荷しています。



さまざまな製品に生まれ変わる樹脂ペレット。



耐久性はもとより加工・接合性にも優れたポリエチレン樹脂製のガス導管。



バイオマス誘導品を生産する三井化学大阪工場。

サステナブルな未来のために
今、できることは何だろう。

Acetone	Phenol
Bisphenol A	Polyethylene
Econykol™	Polymer colloids
Ethylene	Polypropylene
Ethylene glycol	Polyurethanes
Evolve™	Purified terephthalic acid
PET resin	

R&D

研究・開発

無限大の可能性を持つ化学の力をいかに引き出し、その力でいかに未来を切り拓いていくかが使命です。



VISION HUB™ SODEGAURA

目指すべき未来社会のために。

地球規模の環境、資源、エネルギー、食糧分野など、さまざまな社会課題に対して、「環境と調和した循環型社会」、「多様な価値を生み出す包摂社会」そして「健康・安心にくらせる快適社会」の実現に貢献するための研究・開発に取り組んでいます。

社会課題の解決に向けて。

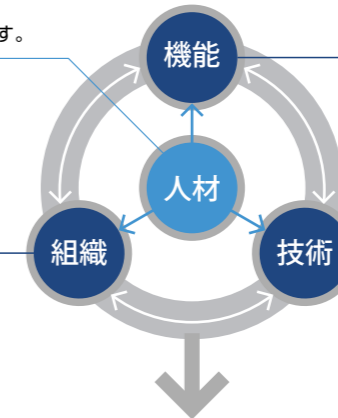
私たちの研究・開発には、2つのアプローチがあります。1つは、〈予測可能な社会課題解決のための戦略〉。事業ポートフォリオごとに解決を目指す社会課題に沿って、保有する技術を起点とした課題解決を目指す研究を行っています。そして、もう1つが〈予測困難な未来の社会課題解決のための戦略〉。予測困難な2030年以降の世界を見据え、多様な可能性から私たち自身が創りたい未来を描き、バックキャストすることにより課題を設定する長期視点での取り組みです。



高分子、有機合成、バイオなどさまざまなバックグラウンドを持った研究者が在籍しています。

3研究所
4センター
1企画管理部 等

技術や人材の育成の場と位置付けています。



技術サポート、銘柄開発、新製品開発、生産技術開発、新事業開発、基盤技術&革新技術開発

4つの目的「事業機会創出」「機能創出」「利益創出」「サステナブル」を念頭におき研究開発部門として活動しています。

テクノロジープラットフォーム

三井化学の保有技術の棚卸により「強化すべきコア技術」と「獲得すべき技術」を特定した技術基盤をテクノロジープラットフォームとし、戦略的に強化、獲得します。

2つのアプローチによる研究開発



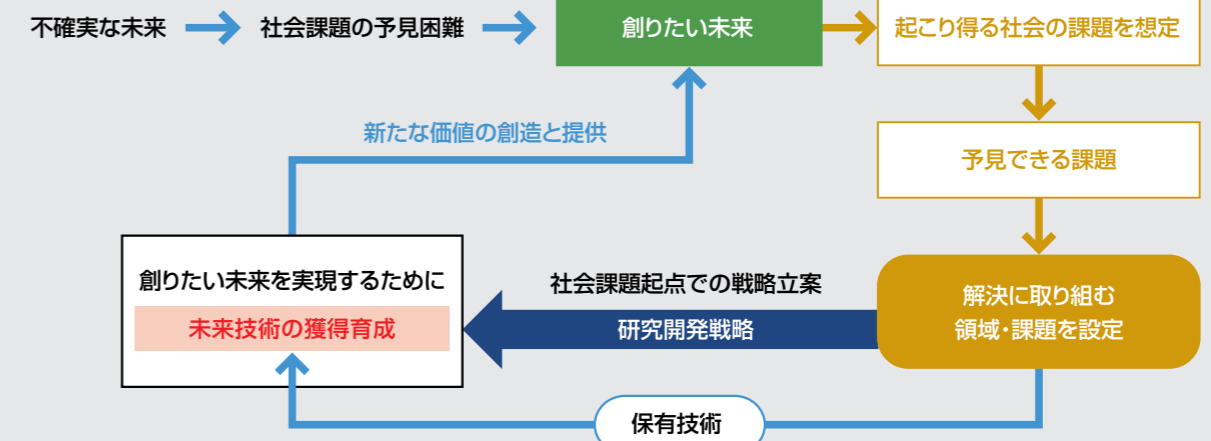
Forecast型 予測可能な社会課題解決のための戦略

- ・強みを生かし、保有技術を起点とした研究
- ・事業ポートフォリオごとに解決を目指す社会課題に沿ったテクノロジープラットフォームの強化・拡充

Backcast型 予測困難な未来の社会課題解決のための戦略

予測可能な社会課題

変化



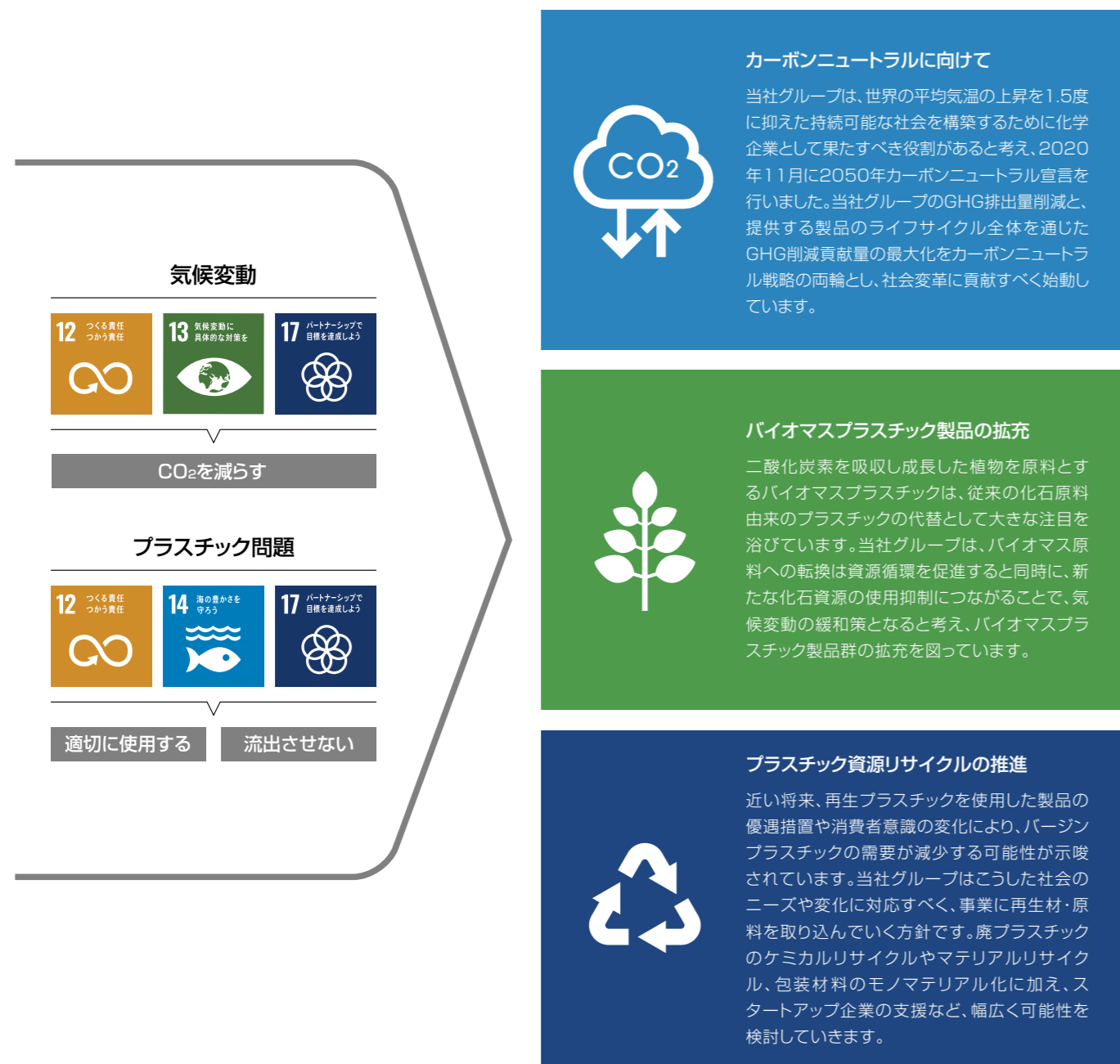
[テクノロジープラットフォーム] → 継続的な強化・拡張

FOR A SUSTAINABLE WORLD

サーキュラーエコノミーを目指して

社会の価値観が多様化し、また大きく変容していく中で、人びとの想いにいち早く応えるためのイノベーションを積極的に推進しています。

三井化学グループは、これまで化学製品や高性能プラスチックの提供を通じてエネルギーの効率改善やフードロス削減など、生活の利便性向上や社会課題の解決に対して貢献してきました。一方、その事業活動においては、多くの化石資源・エネルギーを使用し、GHGを排出しています。また近年では、海洋に流出したプラスチックごみによる環境汚染が懸念されています。こうした気候変動とプラスチック問題について、当社グループは真摯に取り組むべき重要な社会課題であると捉え、資源を消費して廃棄するという一方通行の経済から、資源を効率的に利用し、再生可能資源を使用するとともに、資源の回収・再利用により廃棄物を出さないサーキュラーエコノミーの実現を目指して取り組んでいます。



CASE 1 西日本におけるエチレン製造設備のカーボンニュートラル実現に向けて

三井化学と旭化成株式会社、三菱ケミカル株式会社は、西日本に各社が保有するエチレン製造設備について、カーボンニュートラルを推進し、脱炭素社会をリードするため、原燃料転換等の検討を開始しました。今回の共同検討は、西日本に拠点を有する3社が地区を超えて連携することにより、エチレン製造設備、さらには各社の保有する石油化学製品のグリーン化をより迅速かつ効率的に進めようとするものです。

今後3社は、石油資源に代わるバイオマスの原料化、低炭素燃料への転換等、グリーン化に資する具体的な方策並びに将来の最適生産体制の検討等に取り組んでまいります。



三井化学 大阪工場

CASE 2 マスバランス方式によるバイオマスPPが、リユース容器シェアリングサービス「Megloo(メグルー)」の専用容器に採用

バイオマスでカーボンニュートラルへ
Be▶PLAYER

温暖化問題の解決に向けた社会のバイオマス化を進める取り組みとして、BePLAYER®ブランドのもとバイオマスナフサによる誘導品(バイオマス化学製品、バイオマスプラスチック)の展開を拡大しています。

2023年、株式会社カマンが展開する飲食店からのテイクアウトごみ削減のためのリユース容器シェアリングサービス「Megloo(メグルー)」の専用容器に、プライムポリマーのマスバランス方式のバイオマスPP(ポリプロピレン)「Prasus®」が採用されました。

リユース容器シェアリングサービス「Megloo」とは
地域共通のリユース容器をシェアすることで、テイクアウト時に感じる罪悪感の払拭、使い捨て容器の削減を目指すシェアリングサービス。スマホで簡単に操作するだけで利用でき、使用した容器は地域の返却ボックスに返却できます。



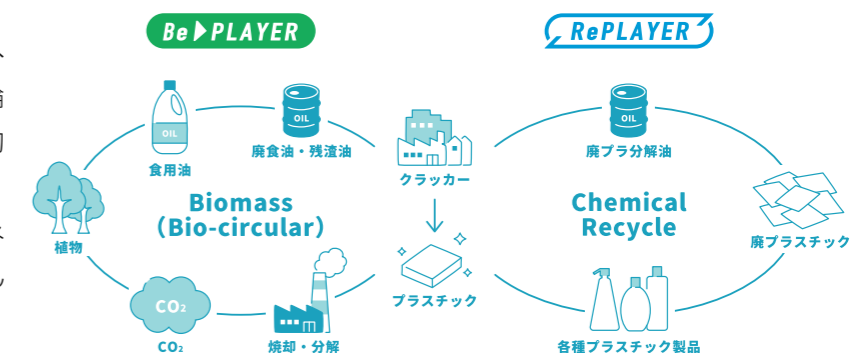
©Kaman

CASE 3 廃プラ分解油によるケミカルリサイクル製品の製造開始

リサイクルでサーキュラーエコノミーへ
RePLAYER

サーキュラーエコノミーの実現に向けて、廃プラスチックを原料とした熱分解油(廃プラ分解油)を、2024年3月に当社大阪工場のクラッカーへ投入し、マスバランス方式によるケミカルリサイクル由来の誘導品(化学品・プラスチック)の製造・販売を開始しました。

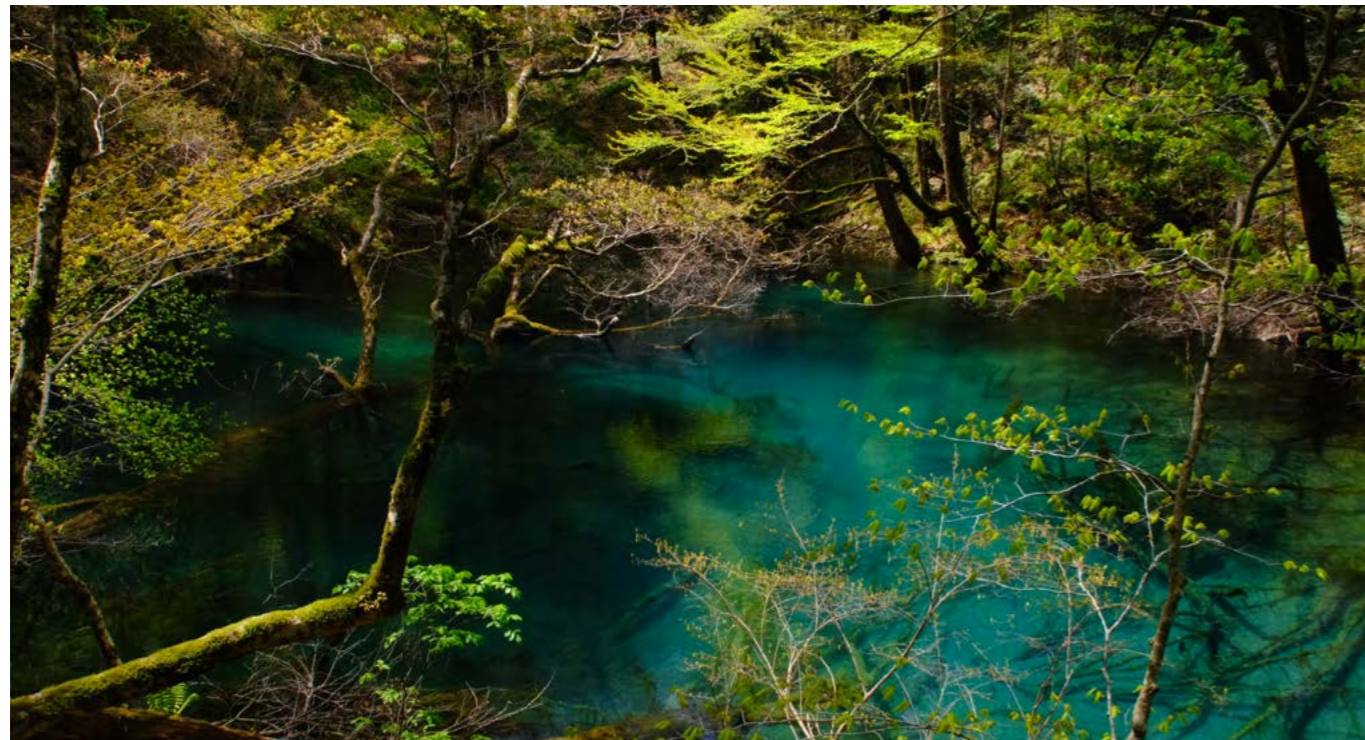
本取り組みと2021年12月にクラッカーへ投入開始したバイオマスナフサ活用の両輪で、石化原料からの原料転換を進め、日本初のバイオ&サーキュラークラッカーを実現し、サステナブル(持続可能性)を超えたリジェネラティブ(再生的)社会の実現に向けて貢献してまいります。



The Protecting Our World Natural Heritage Project

世界自然遺産応援プロジェクト

三井化学グループでは自然遺産の持続可能な保存に貢献し、美しい自然を守りたいとの思いから、日本における世界自然遺産を応援する活動を実施してきました。我々のかけがえのない財産として、これからの世代に引き継いでいくべき自然遺産を、三井化学グループは応援しています。



第5弾 > 白神山地

小学生がデザインしたベンチを寄贈

三井化学と三井化学産資は、白神山地の麓にある藤里町立義務教育学校藤里学園にて、秋田県能代市出身の家具職人である湊 哲一氏による白神山地をイメージするベンチデザインのワークショップを実施。授業では、実際に小学生がデザインしたベンチ3基とコンビネーションベンチ1組を「木が呼吸できる塗装：ノンロット®」で塗装し、白神山地世界遺産センター藤里館、総合観光案内所（森のえき）と藤里学園に寄贈しました。



ぶな林の中での自然体験学習



森のえきに設置したベンチ

第3弾 > 知床

ツリーデッキを寄贈

三井化学と三井化学産資は、公益財団法人知床財団が主催する知床自然教室の40周年を記念して「ノンロット®」で塗装したツリーデッキを3基を寄贈しました。



第4弾 > 奄美大島

海洋ごみクリーンアップ活動

奄美大島の須野地区において、地域の方々とともに漂着した海洋ごみや投棄されたごみのクリーンアップ活動を実施し、45kgのごみ40袋分(=約1.8㎡)のごみを回収しました。



History of Mitsui Chemicals

三井化学グループの歴史

石炭化学の時代

- 1912 ● 三井鉱山が大牟田で本格的な化学事業を開始(現・大牟田工場)



- 日本最初のコッパース式コークス炉建設
- 1915 ● 日本初の合成染料アリザリンの生産開始(大牟田)
- 1916 ● 大牟田でフェノール生産開始
- 日本初の石炭化学コンビナートを形成
- 1928 ● 三井鉱山化学事業が合成アンモニアや硫安事業へ本格的に進出



- 1932 ● 合成染料インジゴの生産開始(大牟田)
- 1933 ● 東洋高圧工業設立



- 1941 ● 三井化学工業設立
- 1944 ● 人造石油生産開始
- 1948 ● 日本初の肥料用尿素大量生産開始(北海道)
- 1950 ● 名古屋工業所(現・名古屋工場)発足
- 1951 ● 名古屋工業所(現・名古屋工場)で塩化ビニルの本格生産開始

石油化学への転換

- 1955 ● 三井石油化学工業設立
- 1958 ● 岩国・大竹工場操業開始
- 日本初の石油化学コンビナートが完成



- ポリエチレン「ハイゼックス®」販売開始



- 1960 ● 米デュポンとの合併会社を設立
(現・三井・ダウ ポリケミカル)、低密度ポリエチレンを生産
- 1962 ● 日本で初めてポリプロピレンを製造(岩国大竹)
- 1964 ● 大阪工業所(現・大阪工場)操業開始
- 1966 ● 初の海外投資でシンガポール・アドヘシブズ・アンド・ケミカルズ(SAC)をシンガポールに設立
 - 尿素系合板用接着剤を生産
- 1967 ● 千葉工場(現・市原工場)でエチレンを生産開始
- 1968 ● 東洋高压工業と三井化学工業が合併、三井東圧化学が発足
- 1970 ● ルーマニアに対する高密度ポリエチレン製造技術を輸出
東欧圏に石油化学技術が初めて輸出となり、
世界的に技術の優秀さが認められた
- 1972 ● タイ・プラスチック・アンド・ケミカル(TPCC)で
塩ビポリマー事業を開始
- 1975 ● ポリオレフィン系接着剤「アドマー®」本格販売開始
「ミラストマー®」が自動車バンパー部品に採用



- 1986 ● 三井石油化学工業 新技術研究開発センター
(現・VISION HUB™ SODEGAURA)起工式



- 本田技研の対米進出要請とマスターバッチ現地生産
対応のため、初のアメリカ生産拠点となるC&CT社を設立
(現・アドバンスト・コンポジット(ACP))



- 1987 ● 三井東圧化学アジアをシンガポールに設立
(現・三井化学アジアパシフィック(MCAP))
- 1988 ● 三井化学アメリカ(MCA)を設立
- 1990 ● 三井東圧化学ヨーロッパ(現・三井化学ヨーロッパ(MCE))を設立
 - 同時に、ドイツと英国に販売会社を設立し、
ヨーロッパ市場のマーケティング体制を整備
- 1994 ● メキシコに初のポリプロピレンコンパウンド製造拠点を設立



三井化学の時代へ

- 1997 ● 三井石油化学工業と三井東圧化学が合併。三井化学が発足



- 1999 ● 三井化学上海(現・三井化学(中国)管理有限公司(MCCN))設立
- 2000 ● 三井化学産資発足(三井石化産資と三井東圧建設資材が合併)
- 2001 ● Mitsui Elastomers Singapore 設立
- 2005 ● プライムポリマー営業開始(出光興産とポリオレフィン事業統合)
- 2008 ● 三井化学India設立
- 2009 ● 三井化学ファイン発足
(三井化学ファインと三井東圧無機薬品と合併)
 - 三井化学アグロ発足
(三共アグロと三井化学の農業化学品事業を統合)

- 2010 ● 三井化学Brasil 設立
 - 三井化学東セロ発足
(東セロと三井化学ファブロのフィルム・シート事業統合)
- 2012 ● 大牟田工場100周年
- 2013 ● Heraeus Holding GmbHの歯科材料事業買収
- 2014 ● 世界初のXDI大型プラントを大牟田工場に新設
- 2015 ● 韓国SKCとの合併会社 三井化学SKCポリウレタン営業開始
- 2016 ● 三井化学韓国(MCKR) 営業開始



- 2016 ● シンガポールにおける「エポリユー®」プラントの
本格稼働開始



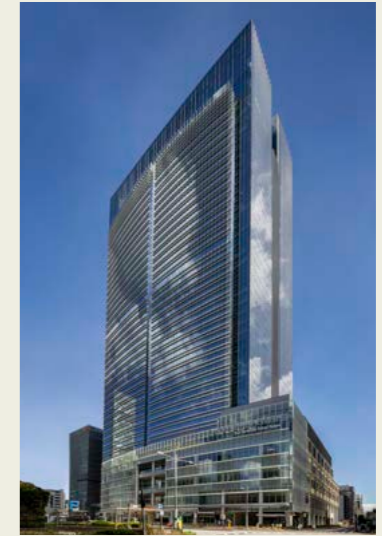
- 2017 ● 三井化学タイランド設立
- 2018 ● グローバル開発支援企業 アーク社の株式を取得
- 2020 ● 欧州初のポリプロピレン コンパウンド自社生産拠点、
本格稼働開始(三井・プライム・アドバンスト・コンポジット
ヨーロッパ(ACE))



- 2021 ● 三井化学と韓国SKC社との
ポリウレタン原料事業の合併解消

グローバルスペシャリティカンパニーへ

- 2021 ● VISION 2030発表
- 2022 ● 三井化学 創立25周年
- 2023 ● 三井化学本社 東京ミッドタウン八重洲へ移転



- 三井化学アグロ、
三井化学クロップ&ライフソリューションに社名変更
- 三井化学東セロ株式会社の分割及び
三井化学東セロ株式会社の一部譲渡について発表
- 三井化学EMSが営業開始
- 岩国大竹工場の高純度テレフタル酸プラント停止
- エム・エーライフマテリアルズが営業開始
- 2024 ● 三井化学ICTマテリアが営業開始
 - 研究開発拠点の名称を
VISION HUB™ SODEGAURAに変更

NETWORK

国内拠点

本社

東京都中央区八重洲二丁目2番1号
東京ミッドタウン八重洲
八重洲セントラルタワー
TEL.03-6880-7500
FAX.03-6880-7616

名古屋支店

愛知県名古屋市中村区名駅南1-24-30
名古屋三井ビル本館8F
TEL.052-587-3601
FAX.052-587-3620

大阪支店

大阪府大阪市西区靱本町1-11-7
信濃橋三井ビル8F
TEL.06-6446-3602
FAX.06-6446-3638

福岡支店

福岡県福岡市中央区天神2-14-13
天神三井ビル7F
TEL.092-715-6931
FAX.092-715-2811

市原工場

千葉県市原市千種海岸3
TEL.0436-62-3221
FAX.0436-62-1818

市原工場 茂原分工場

千葉県茂原市東郷1900
TEL.0475-23-0111
FAX.0475-23-8130

名古屋工場

愛知県名古屋市長区丹後通2-1
TEL.052-614-2111
FAX.052-614-2191

大阪工場

大阪府高石市高砂1-6
TEL.072-268-3502
FAX.072-268-0004

岩国大竹工場

山口県玖珂郡和木町和木6-1-2
TEL.0827-53-9010
FAX.0827-53-8800

徳山分工場

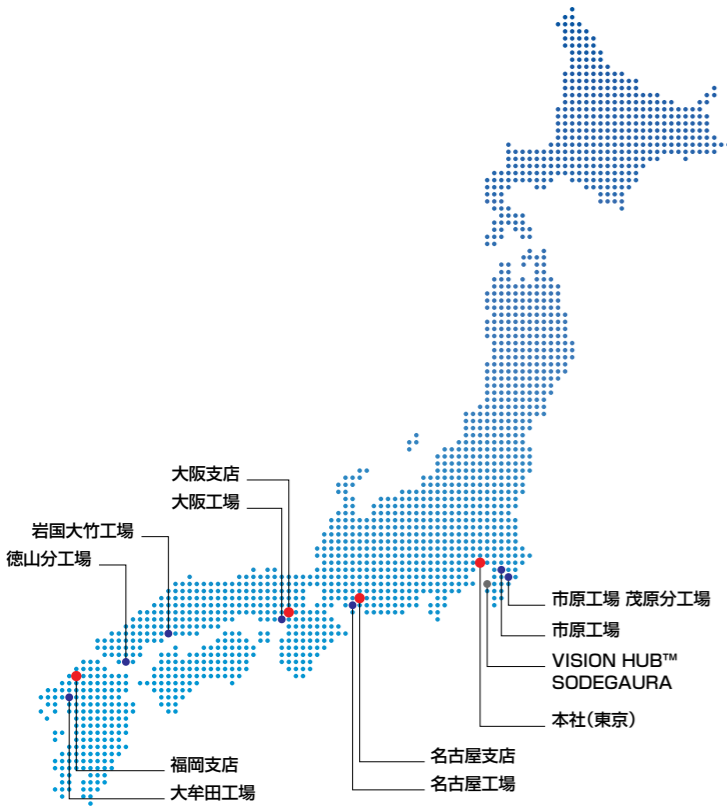
山口県周南市徳山港町3-1
TEL.0834-31-5880
FAX.0834-31-5893

大牟田工場

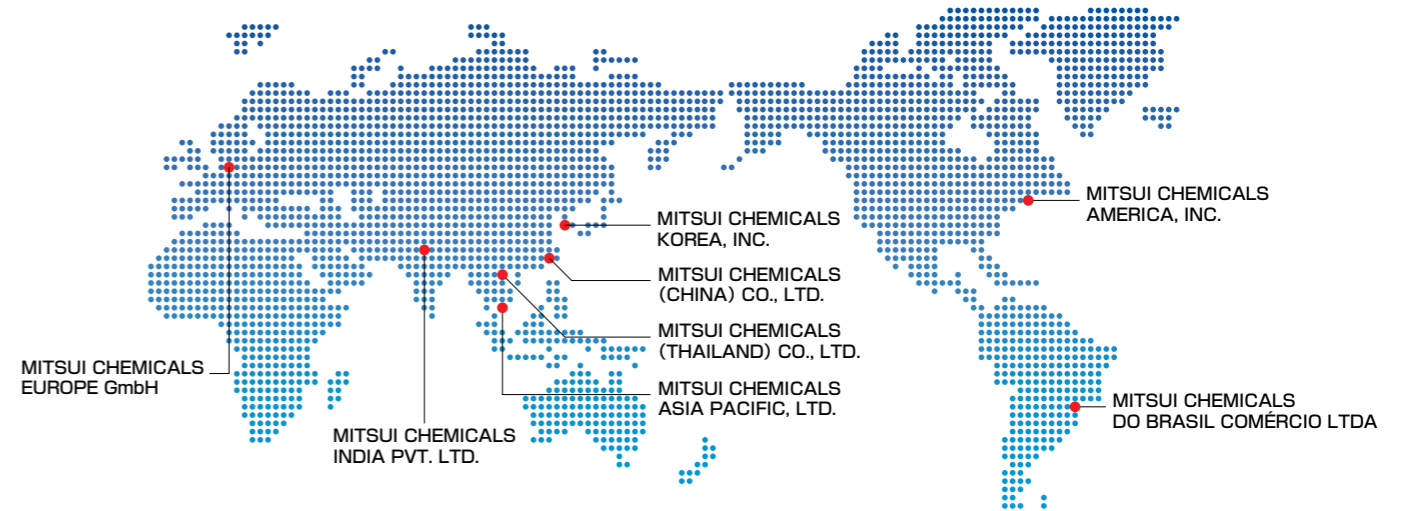
福岡県大牟田市浅牟田町30
TEL.0944-51-8111
FAX.0944-51-8128

VISION HUB™ SODEGAURA

千葉県袖ヶ浦市長浦580-32
TEL.0438-62-3611
FAX.0438-64-2360



海外拠点



MITSUI CHEMICALS EUROPE GmbH

Oststrasse 34, 40211 Duesseldorf, Germany
TEL +49-211-173320
FAX +49-211-17332-701

MITSUI CHEMICALS (CHINA) CO., LTD.

21F, Capital Square, 268 Hengtong Road,
Jing'an District, Shanghai, 200070, P. R. China
TEL +86-21-5888-6336
FAX +86-21-5888-6337

MITSUI CHEMICALS KOREA, INC.

15F, Building-B, PINE AVENUE, 100,
Eulji-ro, Jung-gu, Seoul, KOREA 04551
TEL +82-2-6031-0200
FAX +82-2-6031-0220

MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC, LTD.

3 HarbourFront Place, #10-01 HarbourFront Tower 2,
Singapore 099254, Singapore
TEL +65-6534-2611
FAX +65-6535-5161

欧州

ACOMON s.r.l
ARRK Engineering GmbH
KULZER GmbH
MITSUI PRIME ADVANCED COMPOSITES EUROPE B.V.
SCIENTIFIC GLASS GmbH
SUN ALLOYS EUROPE GmbH

東アジア

三井化学複合塑料(中山)有限公司
三井化学功能複合塑料有限公司
上海中石化三井化工有限公司
上海中石化三井彈性体有限公司
上海三井複合塑料有限公司
上海誠共模具科技有限公司
張家港保稅區三井允拓複合材料有限公司
台湾三井化学股份有限公司
台塑三井精密化学有限公司
龍山三井化学株式会社
三井艾喜縵機能膜股份有限公司

佛山三井化学聚氨酯有限公司

三井化学クローズド&ライフソリューションコリア株式会社
錦湖三井化学株式会社
天津天寰ポリウレタン有限公司
ロッテ三井化学株式会社
KULZER DENTAL LTD.
ML TECH CO., LTD.

東南アジア・オセアニア

三井化学シンガポールR&Dセンター
MITSUI CHEMICALS SCIENTEX SDN.BHD.
GC-M PTA CO., LTD.
GRAND SIAM COMPOSITES CO., LTD.
MC TOHCCELLO (MALAYSIA) SDN.BHD.
MCTI SCIENTEX SOLAR SDN.BHD.
MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE LTD
MITSUI HYGIENE MATERIALS THAILAND CO., LTD.
PRIME EVOLUE SINGAPORE PTE.LTD.
P.T.PETNESIA RESINDO
SDC TECHNOLOGIES ASIA PACIFIC, PTE. LTD.

MITSUI CHEMICALS INDIA PVT. LTD.

3rd Floor, B-Wing, D3, District Centre,Saket,
New Delhi -110017, India
TEL +91-11-4120-4200
FAX +91-11-4120-4299

MITSUI CHEMICALS AMERICA, INC.

800 Westchester Avenue, Suite S306 Rye Brook,
NY 10573, U.S.A.
TEL +1-914-253-0777
FAX +1-914-253-0790

MITSUI CHEMICALS DO BRASIL COMÉRCIO LTDA

Avenida Paulista, 91, 6º andar, Conjunto 602
CEP 01311-000 - Bela Vista - São Paulo - SP - Brasil
TEL +55-11-3016-4000
FAX +55-11-3016-4025

MITSUI CHEMICALS (THAILAND) CO., LTD.

33/4 Unit TNA01, Floor 33,Tower A, The 9th Towers Grand Rama 9,
Rama 9 road, Kwaeng Huay Kwang, Khet Huay Kwang, Bangkok,
Thailand 10310, Thailand
TEL +66-2-026-3242
FAX +66-2-107-1855

国内グループ会社(2024年4月1日現在)

株式会社アーク

エム・エーライフマテリアルズ株式会社
エムシークローズド&ライフ化成株式会社
エムシーデンタルホールディングスインターナショナル合同会社
株式会社エムシー・ビジネスサポート

株式会社エムシー緑化

大阪石油化学株式会社
活材ケミカル株式会社
共同炭酸株式会社
共和工業株式会社
クルツァージャパン株式会社
作新工業株式会社
三西開発株式会社
サンメディカル株式会社
サンレックス工業株式会社
下関三井化学株式会社

ジャパンコンポジット株式会社

ジャパンポリオール有限責任事業組合
株式会社松風
大正エム・ティ・シー株式会社
たはらソーラー・ウィンド共同事業
千葉ケミカル製造有限責任事業組合
DMノバフォーム株式会社
東洋興産株式会社
株式会社東洋ビューティサプライ
東洋燐酸株式会社
徳山ポリプロ株式会社
日本アルキルアルミ株式会社
日本エポキシ樹脂製造株式会社
日本エポリユール株式会社
日本テンサー株式会社
株式会社プライムポリマー

北海道三井化学株式会社

本州化学工業株式会社
三井化学ICTマテリア株式会社
三井化学EMS株式会社
三井化学エムシー株式会社
株式会社三井化学オペレーションサービス
三井化学クローズド&ライフソリューション株式会社
三井化学サンアロイ株式会社
三井化学産資株式会社
三井化学ファイン株式会社
株式会社三井化学分析センター
三井・ケマーズ フロプロダクツ株式会社
山本化成株式会社

主な海外グループ会社(2024年4月1日現在)

VITHAL CASTOR POLYOLS, PVT. LTD.

MITSUI PRIME ADVANCED COMPOSITES INDIA, PVT. LTD.
PT MITSUI CHEMICALS POLYURETHANES INDONESIA
THAI MITSUI SPECIALTY CHEMICALS CO., LTD.
MITSUI CHEMICALS POLYURETHANES MALAYSIA SDN. BHD.

北米

ADVANCED COMPOSITES, INC.
ANDERSON DEVELOPMENT COMPANY
DENTCA, INC.
KULZER, LLC
KYOWA INDUSTRIAL CO.,LTD., U.S.A.
SDC TECHNOLOGIES, INC.

中南米

ADVANCED COMPOSITES MEXICANA S.A. DE C.V.
MITSUI CHEMICALS DO BRASIL COMÉRCIO LTDA.